

【その他】

明星教育センター収集資料紹介 ヨット「エコー号」の太平洋航海に関する寄贈品

長谷川 倫 子*

はじめに

明星教育センターでは、自校史（明星大学の歴史）に関わる資料を収集・保存、公開する活動を行っている。本稿で紹介する資料は、上野直紀氏（元いわき明星大学教授）が2016年3月に明星教育センターへ寄贈したヨット（小型帆船）「エコー号」の太平洋航海に関するものである。

「エコー号」は、本学の「実践躬行の体験教育」という教育理念に基づいた実習の開講のため、1984年の明星大学創立20周年記念に取得されたものである。寄贈者の上野氏は、1985年に、「エコー号」の艇長として、東京—マイクロネシア連邦ヤップ州間を約60日間の太平洋航海を成功させた。本稿では、「エコー号」の太平洋航海に関する概要と寄贈資料の紹介することを目的とする。

1. ヨット「エコー号」太平洋航海

「エコー号」は、見玉三夫第2代学長がアメリカのミシシッピ州立大学を視察した際に、ヨットによる教育に感銘を受け、学生に広大な自然に親しませることにより、展望力、分析力、決断力、リーダーシップなどを養うのに役立たいという考えから、1984（昭和59）年の明星大学創立20周年を機に取得された小型帆船（ヨット）である。



太平洋航海出航（左：見玉三夫第2代学長、
右前：上野直紀艇長、右後：青木秀雄副艇長）



日本を出港したエコー号

1985（昭和60）年には、東京から真南に約4,000km離れたマイクロネシア連邦ヤップ州より、「ガアヤンカヌー」¹による古代航法による日本親善航海の伴走の要請を受けた。1985年5月31日には、佐島マリーナ（神奈川県三浦半島）にて壮行会を開催し、上野直紀艇長（元いわき明星大学教授）・青木秀雄副艇長（明星大学教授）をはじめとする6名で、6月2日にマイクロネシア連邦ヤップ州をめざして約60日間の航海に出発した。

* 学芸員 明星教育センター



周囲に貨幣である石貨が置かれているヤップ島博物館



「エコー号」の帰路を見送る「ガアヤンカヌー」

順調な航海を続け、6月24日にヤップ島コロニア港に到着し、島民をあげての大歓迎を受け、国際的交流を深めた。



ヤップ島 歓迎会



ヤップ島子どもたちによる歓迎

当初、ガアヤンカヌーの伴走を目的とした航海であったが、悪天候などの条件が重なり、ミクロネシア連邦政府の要請でやむなく延期となった。帰国を余儀なくされたエコー号は、往復約8,000kmに及ぶ無事故での航海は快挙であり、エコー号は、民族の相互理解、国際親善という本来の目標を十分に果たした。

「エコー号」は、1986（昭和61）年から、「自然に親しみ、集団生活を通して人間性の育成と体力および技術の向上を図り、正課体育で学習することのできない大自然の中で研修し、強固な心身の育成」を目的として、明星大学体育実技Ⅱ」の自然コース実習で使用された。1988（昭和63）年には、いわき明星大学（福島県いわき市）でも実習が開講され、両大学の学生にとって、集団生活を通して協調性、自主性、他人に対する理解を深めるなど、体験を通して学ぶ貴重な教育活動の一環として続けられた。

「エコー号」による教育活動は、その後、「エコーⅡ世号」、「エコー3世号」と引き継がれていったが、老朽化に伴い、2002（平成14）年のエコー3世号が退役したことにより、歴史の幕を下ろした。

2. 「エコー号」の太平洋航海に関する寄贈品

今回、寄贈された史料は、ミクロネシア連邦ヤップ州ヤップ島より友好の証として贈呈された石貨や貝貨、民族衣装・工芸品、エコー号で実際使用されていた木板などを含む96点である。（表1）

表1 上野直紀氏による「エコ号」寄贈品一覧

資料名	個数	概要
フェ (石貨)	1	結晶質石灰岩で作られた石の通貨。ヤップ語で「ライ」とも呼ばれる。通常の通貨ではなく。冠婚葬祭などの儀礼に用いられる。
石貨のミニチュア	2	フェ (石貨) のミニチュア。個人で所蔵できるように小型化されている。
ヤール (貝貨)	13	真珠界の一種「シロチョウガイ」や「クロチョウガイ」を使用した通貨。かつては、日常の通貨として使用されていた。
ネックレス	3	貝で作られたネックレス。
ブレスレット	3	貝で作られたブレスレット。
首飾り	3	チュルと呼ばれる伝統舞踊の際に身に付けられる。
マラマル (花冠)	2	チュルと呼ばれる伝統舞踊の際に身に付けられる。
腰みの	5	チュルと呼ばれる伝統舞踊の際に身に付けられる。
ラバラバ (腰布)	6	日常で女性が腰に巻く民族衣装。
こどもたちの絵画	24	ヤップ島のこどもたちによる絵画。
貝の貼り絵	3	子安貝などで表現された貼り絵。
笠	2	ヤシの繊維を使用。
籠皿	1	子安貝とヤシロープで編まれた。
魚籠	2	ヤシの繊維を使用。
カヌーの模型	2	ヤップ島の「ガアヤンカヌー」の木製の模型。
海図 (チャート)	1	カヌーの航海で使用された海図で、子安貝で島やサンゴ礁の位置を示している。
エコ号 航海関連パネル	20	星友祭 (大学祭) などの展示で使用されたパネル。
エコ号 船首の木板	2	船首の左右に取り付けられていた木板。
エコ号 木製プレート	1	船体に取り付けられたいた木製のプレート

※その他、ヤップ島周辺の海で採れる貝殻などが寄贈された。

以下、希少な資料として、「石貨」と「貝貨」について、紹介する。

① 石貨

中でも「フェ」と呼ばれる石貨は、ヤップ島のシンボルであり、現在では、島外への持ち出しが禁止されており、民俗資料としても価値のある資料である。石貨は、「ライ」とも呼ばれ、日常の通貨として使用されず、土地の売買や紛争の調停、冠婚葬祭、通過儀礼などで使用されていた。大きさは、手のひらに乗るものから直径3m以上のものがあり、その多くは、ヤップ島から約400m離れたパラオからカヌーによって運搬された。製造の際の危険性や海を越えての運搬に労力がかかることから、石貨の価値は、大きさ・重さ・美しさではなく、運搬の際の犠牲や労力によって決まるとされている。



ヤップ島の石貨

② 貝貨

ヤップ島の「石貨」と同様に古くから伝わる伝統的な貨幣で「ヤール」と呼ばれる。「石貨」とは異なり、日常の通貨として使用されていた。貝貨は、かつて中国やマレーシアなどの各国で様々な貝殻を使用して製造されていた。ヤップ島の貝貨は、主に真珠貝の一種「シロチョウガイ」や「クロチョウガイ」の殻を使用し、ヤシの繊維を編んで作られる「ヤシロープ」と呼ばれる伝統的な紐に繋げて製造されるのが特徴である。



ヤップ島の貝貨

おわりに

寄贈された「エコー号」に関する資料は、2017年10月まで明星大学資料図書館内の明星資料展示室の企画「拡大期の明星大学」展でも一部紹介されている。

今回、紹介した資料に限らず、寄贈された資料を保存・管理するだけでなく、展示などを通して、広く一般に公開するという事も自校史研究・教育活動の重要な役割である。今後もこの役割を強く認識しながら、資料の保管・管理・公開による自校史研究・教育活動を行っていききたい。

【註】

- 1 ガヤンカヌー…ナイフのように細い船体に約3本の浮き（アウトリガー）が両側に突き出た型をしている。

【参考文献】

太平洋学会編『太平洋諸島百科事典』原書房、1989年

印東道子『ミクロネシアを知るための58章』明石書店、2005年

ミクロネシア連邦政府観光局ホームページ <http://www.visit-micronesia.fm/jp/index.html>

国立民族博物館ホームページ <http://www.minpaku.ac.jp>

日本銀行金融研究所貨幣博物館ホームページ <https://www.im.es.boj.or.jp/cm/info/index.html>

【付記】

掲載したエコー号関連の写真の一部は、資料をご寄贈いただいた上野直紀先生にご提供いただきました。末筆ながら、深く感謝を申し上げます。